

大工と鬼六





村

流れ

昔、あるところに
大きな川が流れていました。
流れがあまりに激しくて、
村人たちが何度橋を架けても、
直ぐに流されて
しまうほどでした。

架ける



大工

山の向こうに、

腕のいい大工が住んでいる

という噂を聞いた村人たちは、

そろって頼みに出かけました。

「お願いです、親方。

丈夫な橋を架けてください。」

「よしきた。引き受けた。」

ところが、

川を見に行ってびっくり。

「こんなに流れが急では、

わしには無理だ。」

噂うわさ